

生きものが豊かな石神井池に！

しゃくじい
石神井池
水辺
しんぶん

かいぼりを軸とした水辺再生の取組をつたえる

No. 6
2023年3月

登録番号4(8)

発行

東京都東部公園緑地事務所
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/toubuk/index.html>

編集

認定NPO 法人 生態工房
<https://www.eco-works.gr.jp/>

協働で取り組む 湿地再生

石神井池では2021年に実施したかいぼりをきっかけに、水辺再生の取組を進めています。その柱の一つが、協働による湿地環境の整備。定例の協働やイベントを通じて、外来植物の駆除や堆積物除去を行っています。



キシウブ密生地点での抜き取り作業



掘り出した根茎の塊
通称「オオサンショウウオ」

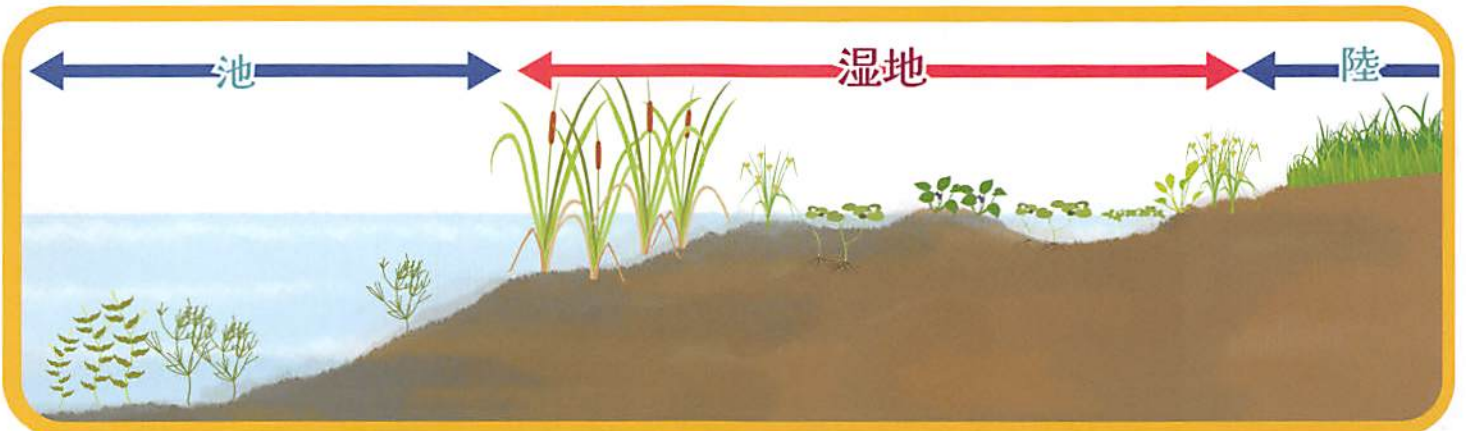
公園管理者と地域団体による協働作業は2021年、外来植物キシウブの駆除から始まりました。本種は長い根茎から分岐して湿地を覆い、在来植物の生育場所を奪うことから、生態系被害防止外来種リストで「重点対策外来種」に選定されています。

外来植物だらけからのスタート

湿地に生息する生きものには、一生を水中で過ごす種類のほかに、生活史の一時に陸地または水中のどちらかを利用するものや、普段から水中と陸地の両方で暮らしているものもいます。こうした生きものが生息するためには、水中から陸地へなだらかに変化していく移行帯：湿地が欠かせません。岸辺の全周に垂直護岸があり、池と陸とがくっきり分かれている石神井池。その岸辺に湿地を整備して、さまざまな生きものが生息する水辺へと再生していきます。

生きものにとって大切な湿地

石神井池の岸辺に、帯状に分布している湿地環境。水面に較べるとわずかな広さしかありませんが、この「水深の浅いぬかるみ」は、トンボ、カエル、水鳥、湿生植物といった多様な生きものを育てています。





枯れ草はやがて倒れ、湿地に堆積していく



作業後の様子。水深の浅いぬかるみが広がった



湿地環境を好むバン

陸化した場所を湿地に戻す

キショウブを低密度に抑える用途がつき、水辺再生の作業は次のステップに進んでいます。湿地にはヨシやマコモが生えている区域もあります。これらは在来種ですが、こうした大型種が優占していることで他の植物が生育できなくなっており、枯れ草や土砂が堆積して陸化も進んでいました。こうした状態を改善するため、堆積物を掘って除去する作業を行いました。作業後には水深の浅い湿地が広がっています。地表の堆積物を取り払った水辺に、これからのような生きものが見られるのが注目してください。

キショウブは湿地のほぼ全域に膨大な量で生育していましたが、とにかく作業に着手。根が密生して抜けない場所では、スコップでブロック状に切りながら取り除きました。月1回の作業を続けて1年半、作業した範囲が池を一周しました。しかし一回の抜き取りでキショウブを完全に駆除できたわけではありません。今後は取りこぼした根茎や、種子から芽生えた個体を根気よく抜き取り、生育密度の低下を図っていきます。

ピックアップ! News

大盛況! 湿地掘りイベント

大人と子どもが泥々になりながら協力し、広い湿地を再生することができました。爽やかな青空の下、きらきらと輝く湿地に、参加者の表情も晴れ晴れとしていました。「作業前後の景観が変わり、達成感があった」「スコップで大きな塊を掘るのが楽しかった」といった声があり、成果の多い作業イベントとなりました。

大きくなっていききました。

1月7日(日)に一般参加の保全作業イベント「湿地掘りの日」を開催しました。小学生から大人までの幅広い世代の31名が参加し、湿地に入って堆積物の掘り上げ作業に奮闘しました。効率よく湿地を広げるために、堆積物をスコップでブロック状に切り出します。初めは不慣れで上手くいかなかった子どもたちでしたが、イベントが終盤に近づくにつれて、切り取るブロックが



大人数でガツガツと作業に取り組みました



協力して作業する子どもたち
上手に根を剥がせると、とても気持ちいい!

しゃくじい自然図鑑

協働作業で整備した湿地は、さまざまな野鳥に利用されています。よく見かけるのはアオサギで、水中の獲物を探してゆっくり歩いていきます。アオサギは2021年から三宝寺池で繁殖するようになり、今シーズンも営巣が確認されています(3月現在)。



アオサギ